

## 平成 16 年度ワーキンググループの検討方針と内容（案）

### （ 1 ）昨年度の成果と課題の整理

今年度WGが山岳トイレ技術分野で検討するにあたっては、初年度における本事業の成果と課題を整理することが前提になる。その上で、今後の本事業の目指すべき方向を見極めながら、今年度WGでの検討方針や検討内容が求められてくる。

初年度となった昨年度には、「山岳トイレし尿処理技術実証試験要領」（以下、「要領」とする）の初版が作られ、さらに、その暫定版がまとめられ、実証試験の基本的考え方、実証試験体制、対象技術の絞込み、実証試験計画など、事業の基本的骨格が整理された。また、実証機関選定基準を作成し、選定を行った。

その中で、本事業の成果を整理すると以下の通りとなる。

対象技術のし尿処理方式が多岐にわたること、また実証試験地ごとに気象条件などの試験環境が異なることから、本要領では試験内容や方法を総括的に規定し、詳細については試験計画策定時に柔軟に対応できることとした。

技術選定の際には、実証申請者に対して実証試験地に関する詳細な情報を求めることとし、申請技術に対しても必要に応じてヒアリングを実施するなどして、慎重に技術を選定することとした。

試験結果を適正に判断するため、実証試験を行った場所の自然環境データについても可能な限り把握することとした。

実証機関を選定する際の“選定の観点”を改正・充実し、“選定要件と判断基準”を新たに設定した。

また、本事業を実施したことにより、関連して次のような成果があった。

山岳トイレ整備の重要性と技術開発の必要性に関する認識が、地方自治体、山小屋、山岳団体など関係機関の間で高まった。

民間企業の間で、山岳トイレ技術開発の気運が高まった。また、研究者や企業に山岳トイレ改善に向けた研究開発の動きが活発になった。

一方、課題としては次のようなことが考えられる。

実証事業の意義や仕組みについての情報が十分行き届いていない。

実証機関を公募する時期が予算の確保などの面で時間的に困難である。

実証機関公募の際、試験対象技術・試験計画が未定なため、事業経費の見積り作成がむずかしい。

実証対象技術を募集するにあたって、実証申請者が試験場所の調整などを行うための時間が十分でない。

新規で設置を希望する実証申請者への費用負担が大きい。

## ( 2 ) W G の検討方針と内容の整理

検討方針と検討内容を整理すると以下のとおりといえる、

実証試験要領に基づく試験の実施に伴う問題と課題の整理

実証機関ごとの実証試験内容を把握し、実証試験の実施期間、試験場所、試験項目、費用負担などについて検討する

実証試験結果報告書の概要版のあり方について検討する

実証機関が実施している内容と結果の確認

山岳トイレし尿処理技術に関する問題と課題を整理し、今後の実証のあり方に関する方向付けを検討する